

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 小学校音楽科における「問い」と「振り返り」の工夫を通して —

指導主事 村上 龍次

研究協力員 菊陽町立菊陽中部小学校 教諭 合志 るみ子

1 はじめに

これからの社会は、AIをはじめグローバル化の進展や技術革新等により、社会構造や環境等が急速に変化し、多様な人々や社会、文化等が複雑に影響し合い、より一層予測が困難な時代を迎える。そのような未来を豊かなものにするためには、人間ならではの感性や創造性が基盤となり、社会や人々の暮らしを幸せにするものは感性であり、芸術的な見方・考え方ではないかと考える。

本実践では、音楽的な見方・考え方を働かせ、よりよく音楽を形づくっている要素を知覚・感受させるために、教師の発問だけではなく、教師の指示が児童の問いを引き出すことができるよう工夫し、音楽のどのような要素や仕組みが、曲にどんな働きかけや効果をもたらすのかということを児童に気付かせたい。また、この実践を通して、音楽表現の工夫やよさを見い出す力を育成し、その結果、日常生活の中で生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わらせながら、学んだことの意味や価値などを自覚させることで、未来の創り手となる感性豊かな児童の育成につなげたい。

2 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

音楽科の「見方・考え方」は、新学習指導要領解説音楽編では、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」と示されている。

さらに、音や音楽を捉えるとは、「音楽がどのように形づくられているか、また、音楽をどのように感じ取るかを明らかにしていく過程において捉える」と示されている。

音楽科の学習において、音や楽曲に対して自分の意見を主張しようとした時、根拠となるものが不十分だと児童は説明することをためらいがちになる。

そこで、児童の発言の中に「音楽のどのようなところから」が出るような手だての工夫として、楽曲の可視化を行った。可視化をするにあたり、色による区別を基本にカードやシール、付箋、色鉛筆などを用いて学習の中に作業的な活動を多く取り入れることで「見える音楽」を児童が自ら作っていく過程を楽しめるように学習を展開した。

そのことにより、感覚的に問いかけるものではなく「音楽的な見方・考え方」が働くように、「なぜ二つの旋律は全く同じとは言えないのか」「なぜ楽器群（音色の違う）が複数あるのか」など「音楽を形づくっている要素」に着目させ、児童の率直な疑問から問いを生み出すことができると考えた。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

学習活動を通して、児童が自身の成長を実感し、次の活動につなげることができるようにすることを目指し、「学びを実感する振り返りの工夫を」設定した。協力校では、学習の終末で振り返りの視点として「わ・が・とも」「わ」（わかったこと）「が」（がんばったこと）「とも」（友達の意見になるほどと思ったことや今まで自分にはなかった考えが出てきたこと）を用いている。この振り返りの質を高め、うまく機能させることにより、児童が学びを実感することができるようにしたいと考えた。

3 研究の実際

検証授業 小学校第5学年

題材名 「アンサンブルのみりよく」

(1) 本題材の授業設計

本題材は、小学校学習指導要領の第5学年及び第6学年の目標(3)「様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。」を受け、2内容B鑑賞(1)「ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」「イ 音

楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」「ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」をねらいとしている。さらに、2 内容A表現(1)「エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」とも相互関連させて、鑑賞したり表現に生かしたりすることもねらいとしている。

鑑賞教材「組曲『カレリア』から第三曲『行進曲風に』」は、二つの主題が交互に現れ、その旋律を演奏する楽器群も旋律同様に变化している構成になっている。オーケストラのダイナミックな響きとアンサンブルの美しさや楽器群が醸し出す響きを生かした曲の構成に気付かせることができるのに適した楽曲である。また、歌唱教材「音楽のおくりもの」(本校11月の歌)は、二つの声部の働きとその効果について、鑑賞したことをもとに合唱表現に生かすことができるのに適している曲である。

この学習では、音色・旋律・リズム・反復・変化といった共通事項に加え、音楽の縦と横の関係にも着目させ、小学校高学年の鑑賞の学習内容を充実させることができると考えられる。

(2) 題材の目標

- ・曲想とその変化、曲の構造やその特徴の面白さを感じ取って聴き、自分なりに曲の魅力について考え、言葉や体の動き、図や色による区別などで表すことができる。 <鑑賞領域>
- ・声部の役割や曲想を生かした表現を工夫して合唱することができる。 <表現(歌唱)領域>

(3) 題材計画

次	時	学習内容
第一次 (鑑賞)	1	組曲「カレリア」から「行進曲風に」を、全曲通して聴き、オーケストラの楽器(楽器群)を確認し、曲の組み立て図をつくる。
	2	全体の曲想や二つの旋律を演奏する楽器群の変化を聴き取る。
	3	楽譜を作成し、旋律が重なるよさを聴き取る。

第二次 (歌唱)	4	「音楽のおくりもの」を斉唱し、対旋律を覚え二部合唱し、二つの旋律の重なりを感じ取る。
	5	二つの旋律の重なりによさや美しさを出すための工夫(声部の響きを生かすための二声のバランス)について考える。

(4) 研究の視点

〔視点1〕

音楽を形づくっている要素に着目する問いを工夫することで、音楽的な見方・考え方を働かせて曲を聴き取り、音楽の特徴をつかむことができるようにする。

〔視点2〕

最初の聴き方(知覚)・感じ方(感受)から、どのように変わったのかということが分かるような振り返りの工夫を行う。自己内比較や他者との比較・相違を実感できるようにする。

(5) 授業の実際

<第1時>「曲の組み立て図をつくろう」

既習事項からオーケストラのたし算(弦楽器+木管楽器+金管楽器+打楽器)を確認し、それぞれの楽器群に緑、黄、ピンク、水色で色分けすることで視覚化の手だてとした。教材曲は6つの部分(フレーズ)に分けられることから、それぞれの楽器群が一番目立って活躍しているのかを聴き取って確認する学習を行った。

児童は楽器群ごとの4色の付箋をワークシート上の①～⑥の枠(6つのフレーズごとの枠)に貼っていくことで楽器群の音色を聴き比べながら取捨選択することができた。また、全体での交流の場面では

②と④は一番よく聴こえるのは金管楽器だけど、打楽器も目立っている。だから(金管楽器の付箋の大きさに比べて)小さく打楽器の水色の付箋をつけた。



という意見もあり、多くの児童が「打楽器だけ目立っているところはないが、②と④は金管楽器と打楽

器が重なっている」との気づきを出していた。

＜第2時＞「図形楽譜で旋律を見よう」

前時で何度も鑑賞したことで、2種類の主旋律ア・イを口ずさめる児童も出てきた。そこで鍵盤ハーモニカの音色で旋律を耳に馴染ませ、既習内容でもある図形楽譜（本実践では教師自作）を見ながら聴取することで旋律を見ることを意識させた。



2種類のア・イの主旋律はどの楽器群で演奏されているのかを聴き取り、図形楽譜を色鉛筆でなぞって自分の考えを表す活動を行った。すると、「曲の組み立て図」と「色付けした図形楽譜」で主な旋律が交互に現れることに気付くことができた。

そこで②と④には金管楽器の迫力ある音色でイの旋律があることがこの楽曲の特徴であることを全体での交流でつかませていった。振り返りでは「②と④は同じ旋律が出てきて同じ金管楽器を使っていることがわかった」という書きぶりが多く見られた。この振り返りを第3時（検証授業）での問いにつなげていった。

＜第3時＞「②と④の特徴が見える図形楽譜をつくって二つの違いを表そう」

前時で②と④は同じだと認識している児童らに、それぞれの冒頭部分を聴かせ「本当に全く同じなのか」と投げかけた。



児童は、イの旋律の反復と楽器群ごとの旋律の重なりに着目し、金管楽器群に打楽器群が効果的に重ねられている管弦楽曲の魅力に気づき、そのよさを実感していった。

児童と教師の発話【問いの工夫 視点1】

- T: この（付け加えた）ピンクはどういうこと？
C: トウットウツといったトランペットが入っています
T: なるほど。イの旋律とは別なのね。7班はまだ他にもピンクがあるけど、これは？
C: イの旋律の3回目で、別の金管楽器が出てきた。低い音がある。
C: 3回目だけピンクが増えている。
T: 6班の最初の水色は何を表していますか。
C: シンバルだと思います。
T: ②にはないのかな？
C: もう一回聴きたい。（②と④の冒頭部分を聴く）
C: 一瞬「パン！」って（シンバルを鳴らす動きをする）
T: これ（水色の付箋）見ただけでも分かるね。

他にも弦楽器群があるのではないかという班の意見があった。弦楽器が入っていると確信を持っているものの、それをどのように言葉で説明していいかわからない様子であった。緑の付箋が示すことで周り（特に、弦楽器群に気付いていなかった児童）に対して納得させることができていた。

- T: このように比べてみると、②では使っていない色
④では使っているね。
C: ②と④は全然違う。
C: ピンクでも別のが出てくる。
C: 打楽器の（種類の）数も（④が）多い。
T: 最初はこれ（曲の組立図）でみんな納得していたの
にね。

学習の終末の振り返りは、以下のとおりである。

児童の振り返りの内容【振り返りシート 視点2】

- わ ・同じ色でもいろいろな楽器が使われていて、全く違うことがわかりました。
・同じ金管楽器でも同じリズムでも同じせんりつでも②と④をよく聴いたら二つともいろいろな特ちょうがあることがわかりました。
・同じリズムやせんりつの音でも違う楽器があるだけで変わるんだなと思いました。
- が ・どんな音が重なっているのか友達が言っていた音を探すことをがんばりました。
- とも ・友達の意見で初めて知ったものもあって、もう一回流してもらった時「ここか!!」とわかった。
・②と④の音は一緒だと思っていたけど全然違うリズムや音が重なっていたのがわかりました。



児童が発言した「全然ちがう」の持つ意味は大きいと感じる。児童は②と④を比較聴取することで、旋律の重なりやそれに伴う音色の違いに気付く、合いの手のような旋律が効果的に入ることでより迫力のある音楽のよさがあると感じ取ることができた。

また、後日、演奏場面のDVD視聴をした際、画面に映る四つの楽器群を確認できたことで旋律の重なりをより実感し、アンサンブルの魅力が視覚的にも実感できた様子であった。

(6) 検証結果と考察

表1は、実践の前後に調査した質問紙調査の結果である。

表1 「学習に関するアンケート」結果より抜粋 (n=33) 4件法

	質問	事前	事後	差
2	あなたは、音楽の授業で学んだことが、自分の将来につながると考えている。	2.21	2.30	+0.08
5	あなたは、音楽の授業で何を学んだのか、どの様に学んだのかについて振り返っている。	2.37	2.45	+0.08
11	あなたは、音楽の授業の中で、音楽の見方・考え方を働かせながら学習に取り組んでいる。	2.71	2.90	+0.19

① 研究の視点1について

表1から項目11の「あなたは、音楽の授業の中で、音楽の見方・考え方を働かせながら学習に取り組んでいる」では、有意な向上が見られた。児童が同じだと思っていた二つの旋律を可視化し「見える音楽」を自ら色別し図形楽譜として作っていく学習展開の工夫により伸びが見られた。これは、付箋を活用して各楽器群を示した成果であると考えられる。また、旋律に着目させることで児童からも問いを生み出すことができた。さらに、色分けしたことで、グループでの話し合いでも自分の考えを説明しやすくなり、児童同士の対話的な活動の充実にもつながった。項目2は、鑑賞と表現を往還したことで、旋律に着目した学習が歌唱表現へとつながったと考えられる。

② 研究の視点2について

振り返りシートにおける「同じ色でもいろいろ楽器が使われていて、全く違うことがわかりました」「同じリズムやせんりつの音でも違う楽器があるだけで変わるんだなと思いました」等の感想から、振り返りの視点を明確にし、授業展開では何度も比較聴取を位置付けたことで、児童自身が学びを実感することができたと考えられる。しかし、児童が感じ取ったことを教師が具体的に言葉にして返すことで、さらに感受したことの理解が深まるのではないかと考えられる。

4 研究のまとめ（成果と課題）

(1) 成果

視点1「見方・考え方に着目した問いの工夫」では、音楽の可視化と比較聴取の手だてが有効に働き、学びのUD化の観点からも成果があったと考えられる。また、表現と鑑賞の二つの領域を往還させる題材において、先に鑑賞活動から取り組むことで、一貫して着目させる要素を明確にすることができた。鑑賞教材での主旋律とそれに重なる楽器群の旋律や打楽器の効果的な使い方についての学習が、歌唱教材における主旋律と対旋律の関係や声部のバランスについて考えることに有効に働いた。視点2「学びを実感する振り返りの工夫」では、児童らの発言やワークシートの記述からも「なんとなく」感じ取ったというようなものは少なく、根拠となる「音の重なり」や「旋律」等の言葉を使って感じたことを伝えることができるようになり一定の成果が見られた。

(2) 課題

児童の発言をさらに促す学習展開の工夫や、児童の素直なつぶやきや発言を全体で共有するための教師の手だてや説明が不十分であった。今後も学びの実感の振り返りをさらに充実させるためのワークシートや板書の工夫を行い、研究テーマに迫る実践的な取組を創造していきたい。

《引用・参考文献》

- ・平成29年改訂教育課程実践講座（宮下俊也 編著）
- ・文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説 音楽編」
- ・「初等教育資料 2018年7月号」～新学習指導要領に向けた指導の在り方～音楽科：他者と協働する音楽科の学習指導～
- ・「小学校新学習指導要領の展開音楽編」（志民一成・宮崎新悟 著）
- ・「深い学び」（田村学 著）